

1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町大字大塚

2 調査期間 二〇〇二年（平14）八月～九月

3 発掘機関 中条町教育委員会

4
調査担当者
吉村光彦

5 遺跡の種類 旧河道

6 遺跡の年代 四世紀～九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は平野の中央部に立地するが、河川沿いに位置する遺跡と
考えられる。今回の調査は県営圃場整備事業に伴う水路部分の調査

で、幅3mの細長い調査区を設けて実施した。古墳時代後期を中心とする遺物が出土したが、遺構はほとんどみつかっておらず、遺跡の性格は不明である。

木簡はすべて幅一二mほどの川跡から出土した。小泊産須恵器が出土していない。

いことから 平安時代初期の遺物群かと思われる。同時期の遺物としては、須恵器の外、木製盤、椀、弓二張などが出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) $\begin{array}{|c|c|c|c|c|c|c|c|c|c|} \hline \square & \square & \square & \square & \square & \square & \square & \square & \square & \square \\ \hline \end{array}$ 山家力 女力 若女 $(184) \times (19) \times 5$ 081

(2) 布二段

(3) ☐ ☐ ☐

$$\bullet \quad \square\square\square \quad (131) \times (9) \times 2 \quad 081$$

(4)

--	--	--	--	--	--

長径150×短径139×厚8 061

(1)は三片に分かれており、下端の切断部分は刃物を入れて折ったものである。上下及び右側面を欠いている。二名分の人名(女性)を列記している。(2)は上下及び左側面を欠いている。物品の収納にかかわるものかと思われる。(3)は下端及び両側面を欠いている。表裏ともに墨痕が認められるが、判読できない。(4)は曲物の底板。墨痕は比較的明瞭だが、釈読できない。なお、釈読は、長岡技術科学大学の相沢央氏のご教示によった。

(水澤幸一)